

# ふるさとと探訪

(33)

## たびたびの 引越し体験

西町二丁目のI・Tビル裏側に、市内の工商業者たちの信仰を集めている綾部商工稲荷神社がある。ご神体は昭和四十四年に京都の

伏見稲荷大社から分霊を授かったものという。綾部に鎮座して今年で三十年になる。その間、諸事情でたびたび引越しを体験。三年

## 綾部商工稲荷神社

前に現在地に腰を据えた。ていた村上嘉重さんと、常

所の相談課長だった梅原昇さん(70)「寺町」による

議所が本町三丁目の商工会

議員だった長岡順一さんの二人が足を運んだ。その後、綾部商工稲荷神社は、昭和五十七年に西町商店街近くで発生した火災によって社殿が焼けた。同センターは西側の木造部分の焼失ですんだため、ご神体は商議所内に仮安置された。商議所は建物の焼失した部分を駐車場に改め、その一角に新しい社を建てて

## 商工業の繁栄祈念し祭る

### 火災も乗り越えて今年で30年に

館から西町二丁目の商工センターに移転する際、綾部の商工業の繁栄を祈念する

ため伏見稲荷の分霊を同センターの屋上に勧請した。

旧三ツ丸百貨店だった商工センターの建物には

元々、屋上に小さな社があったという。伏見稲荷大

社へは商議所副会頭を務め

同神社を遷座した。

昭和五十七年といえは、

西町商店街の商業近代化事業がスタートした年。その

年にお稲荷さんが地上に降りたことに梅原さんは「因縁を感じる」という。

二年後、同神社の復興を願った村上さんや大槻實雄さん、佐々木正夫さん、衣

川充利さん、山下永逸さん

ら商議所役員と近隣商店街

の人たち、篤志者ら三十四人が発起人となって同稲荷奉賛会を組織した。

初代総代に就いたのは村上さん。当初の奉賛会員は

三百人余りいたという。昭和六十年二月初午(う



平成2年の初午大祭。当時の綾部商工稲荷は商工センター西側の駐車場の一角に祭られていた

主、奉賛会が行事の運営を担って稲荷降殿鎮座初午大祭が執り行われた。それから毎年初午の日に、祭礼が行われるようになった。

平成六年には西町商店街の近代化工事の関係で、同

稲荷はまた引越しを余儀なくされた。商議所が市民センター(並松町)に移転

したため、お稲荷さんも再びそこへ。

### 御影石の台座に

### 総ヒノキ造りの社

三年後に商店街が西町ア

イタウン一番街として生まれ変わり、今の場所に祭られた。御影石の台座の上に建つ現在の社殿は、高さ一・三メートルの総ヒノキ造り、屋根は銅板ぶきの立派なもの。近代化前の社殿より小振りだが、「小さくともキラリと光るお稲荷さん」といった感じだ。

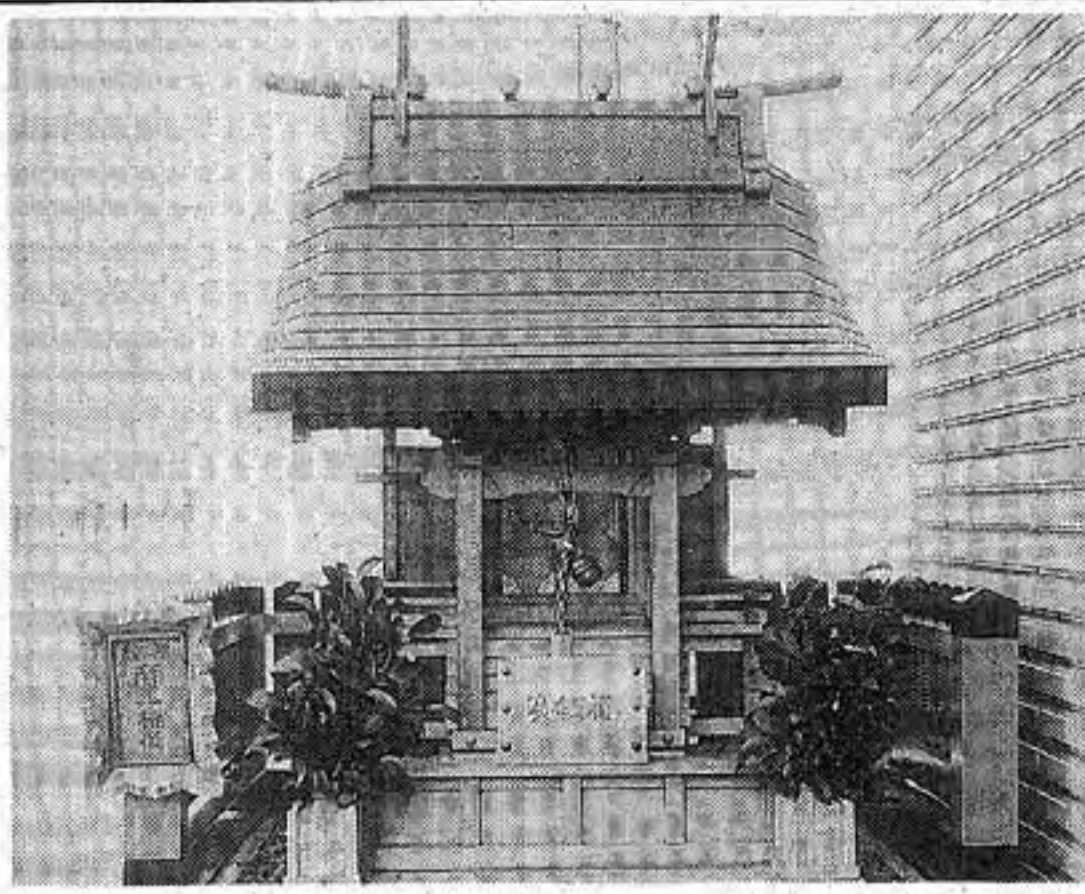
今年も二月十二日に奉賛会が主体となって初午大祭が行われた。総代は今年から大槻さんが引き継いだ。大槻さんも三十年間、同神社とかかわってきた一人。

「(商工稲荷は)綾部の商工業繁栄のシンボル。商店街の表通りに祭りたいくらい」と崇(あが)める。

地域経済の底冷え状態が続く昨今、景気回復を願う綾部の商工業関係者たちの思いは神にもすがりたい心境だろう。そんな多くの人

たちが、綾部商工稲荷の霊験を期待しているのではなからうか。

(高橋)



西町1丁目のI・Tビル裏側に祭られている綾部商工稲荷神社